

## 定期巡回・随時対応型訪問介護看護会議録

平均月別利用者数 19.6人（令和4年2月～令和4年6月現在）（前年度20.5人）

平均要介護度 2.97（前年度3.00）

ヒルズ入居者比率 34.6%（令和4年1月現在）（前年48%）

看護付き 10.6件（前年度11件）

売上 3,650,000円/月ほど（前年4,000,000円/月）

利用者数は17～21人の間で昨年同様、数字的なばらつきはあるが、安定できています。利用者数が減っても、外部からの依頼が多くなってきております。退院直後、状態安定するまでなどスポット的に対応するケースは、この5か月においては終末期のがん患者が増加しており、医療保険における訪問看護への依頼へとシフトしており、定期巡回としては件数減少がみられます。外部からの依頼が多くなっていることは、外部研修などにおいて、定期巡回の認知度が高まり、マッチングにつながっていることが依頼時のインタビューでわかりました。

今後の方向性としては、昨年度同様に利用者数を25人くらいで安定させていきたいです。しかし、数値目標にとらわれず、その方に合ったサービスや制度のご提案もしていき、法人全体だけでなく、地域圏域の事業所へのアプローチもさらに強化してまいります。

傾向としては高齢者支援センターからの独居・困難事例をご紹介いただいています。利用者とその娘（精神疾患）が家族からDVを受けており、緊急避難していて、地域生活を再開するにあたる生活再建を行うケース、本人が認知症で不潔行為などがあり、支援する家族も遠方等の事情をかかえており、家族の介護力が低いケースなど社会的課題を有するケースが多いです。

また、最近では医療依存度が高い方の支援が増えており、ご自宅で看取りするケースもこの5か月では2件（前年度は1年で3件、前々年度は1件）でした。（実績計上は訪問看護として算定されているので、定期巡回での実績とはなっていないが、これは一体型の事業所だからこそできる特徴と考えられます。）

今年度は、前年度に続き、部門長クラスのマネジメントスキルおよび定量的視点をもつ自立支援介護の評価ができる人材育成を目指します。また科学的根拠に基づく自立支援介護について、外部講師から職員全体への研修を実施し、職員自らが考えて、目の前の利用者様に何が起こっているのだろうと考える職員が多くなりました。

新型コロナウイルス感染症について、利用者やその家族からの発生は定期巡回での利用者においては確認されませんでした。職員は罹患および濃厚接触者0名で、日常から1メートル以内に15分以上は近づかないことやマスクやアクリル板を挟んでの会議、1時間ごとの換気、デスク周りや事務所全体の頻回なアルコール消毒などもあり、一日も休むことなく営業できています。7月10日現在では3回目ワクチン接種率は96%であり、おおむね完了する予定です。7月になり、東京都内の感染者数が上昇し、第7波到来かという報道もありますので、感染対策は引き続き継続してまいります。

## 出席者からのご意見

**地域に住むケアマネジャー**：自分たちの自己評価を厳しく分析できており、アンケート結果の深堀も行っているからこそ、改善点につながられていると感じた。

**地域包括支援センター**：実際に依頼して同行した際には、導入時の説明が端的であり、緊急通報システムのボタン設置などで、利用者やそのご家族の安心につながる体制ができている。暴力などを行う利用者でも依頼を受けてもらい、助かった。

⇒暴力の背景を考えている。その背景を考えて話しかけ方を変えると暴力がなくなることもある。

**地域の自治会長**：自己評価をきちんと分析できている。安心して歳をとれるなど思った。若い人が同居していたりすると、このサービスは利用する人は少ないかなと感じる。また独居の人も大変だろう。一番利用しているのはいわゆる老々介護のようなケースではないだろうか。これからそういう人は増えるだろう。

**地域自治会会員**：自分には、親が4人とも健在で、老々介護となっている。今すぐにも利用したいと思った。緊急時のボタンがあるということだが、ボタンを押すと、誰が何人で行くのか？

⇒随時対応はほぼ看護師で対応し、体調の急変などに対応している。その後、生活領域でケアが必要な時は介護職員で対応している。

**高齢福祉課**：自分たちの事業を自分たちで判断して運営されている。市としては、医療・介護連携においては、ゆりかごさんが対応しているよりもっとざっくりとしたものをイメージしていた。外部からの依頼というのは、どういう意味か？

⇒同法人ではなく、別法人のケアマネジャーからの依頼という意味。

**市社会福祉協議会支部役員**：毎年自己評価の結果を見ていて改善されてきているので、今後もお願いします。しかしながら、毎回自己評価で報告や連絡の徹底が弱い面がある。自分だけ知っていても、その他のチームメンバーがみんな知っている状態にしておくことが、良いサービスを提供するということでは大切だと思う。もっと工夫して、密な連携をお願いしたい。

**地域医療関係者**：在宅医療などで長年お付き合いがある中で、主催の勉強会などによく参加してもらっており、その時に感じたとおりに運営されていて安心できた。患者に向き合うことができていると感じる。これからも連携をお願いしたい。

**利用者**：自分の生活が成り立っているのはこのサービスのおかげ。夜でもいつでもつながっているということが安心につながっている。これからもお願いします。(欠席のため、別日に聞き取り)

皆さまのご意見を活かしながら、今後の運営に役立ててまいります。  
ありがとうございました。